

---

# 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

## センターだより 第169号 (通巻第236号)

---

2018年12月26日 発行  
山梨大学教育学部  
附属教育実践総合センター  
TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790  
E-mail:jissen@ml.yamanashi.ac.jp  
URL:http://www.cer.yamanashi.ac.jp/

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラム等に関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

### ■ 山梨大学教師塾プログラム2018「授業力養成講座 第2弾！」のお知らせ

附属教育実践総合センターでは、「山梨大学教師塾」事業として、教育学部の皆さんの授業力向上や教育実習に関してのサポートを行っています。

今年度の第2弾として、主として来年度に教育実習を控えた2年生を対象（他学年も参加可）に、「授業力養成講座 第2弾！」を開催します。

1. 日 時 平成31年1月30日（水）13:10～15:20
2. 場 所 教育学部 J号館5階 A会議室
3. 内 容 今回の授業力養成講座のテーマは、「未来を描こう」です。
  - (1) 全体会では、全国的にも有名な辻本昭彦先生をお招きして、教師の仕事の意味と魅力について考えるワークショップを行う予定です。
  - (2) 全体会後の分科会では、山梨大学教育学部のOB・OG教員がやってきます。身近な先輩（教職3年目等）が、先生になってみての、学校の今について語ります。「なんでもQ&A」もあります。先輩にいろいろ聞くことができる絶好の機会です。
4. 講 師
  - (1) 全体会 辻本昭彦先生（武蔵野市立第五中学校教諭）
  - (2) 分科会 分科会①小澤脩人先生（甲府市立玉諸小学校教諭）  
分科会②長野 楓先生（甲府市立国母小学校教諭）  
分科会③服部茉莉子先生（甲斐市立竜王北小学校教諭）なお、分科会の受講希望をとりますが、人数制限があるため、希望に添えない場合もあります。
5. 申込み方法  
以下の①～④を記入のうえ、メールで申し込んでください。  
メールアドレス jissen@ml.yamanashi.ac.jp
  - ①学籍番号 ②コース・系 ③氏名 ④受講希望の分科会（分科会番号）

大勢の皆さんの参加をお待ちしています。

## ■ 平成30年度「第3回連携・教育研究会」の報告

平成30年11月27日(火)に、山梨県総合教育センターにおいて、「第3回連携・教育研究会」を開催しました。全体会では、本学社会文化教育講座の教授であり、附属教育実践総合センター長でもある田中勝先生による講演会、そして、分科会では山梨県総合教育センターの研究に関わる協議がグループごとに行われました。

田中勝教授の講演は、専門分野である『住居学・建築学』を活かし、「子どもが主役 町並み保存 ー歴史的集落・町並みにおける地域協働のふるさと学習と担い手育成ー」をテーマに、全国の歴史的町並みや集落（合掌造りで有名な岐阜県白川郷やこみせ通りで知られる青森県黒石市など）について写真を使って、紹介していただきました。本県山梨県においても甲州市塩山に現存する上条集落（屋根裏で養蚕を行うために主屋の屋根前面の中央部を突き上げた特徴をもつ）や、講中宿として栄えた早川町赤沢宿があることを知りました。こうした町並みや集落を保存していく取り組みとして、「住まいは土地に固着する」ということを考慮し、その担い手となる小・中・高校における、ふるさと学習の事例やその重要性について紹介されました。例えば、田中先生が開発したペーパークラフトを使った、住まい・住生活・町並み保存を題材とした学習の支援。

このペーパークラフトは、子どもたちが保護者と協力したりする中で、自分の手で作っていくことによって、様々な発見をし、人々の暮らしや周りの環境、当時の暮らしを想像することができるという利点があるようです。また、白川郷で有名な白川村の義務教育学校では、総合的な学習の時間を使って、外部講師と協力して合掌屋根組立体験を

することで、子どもたちのふるさとへの愛着を育み、合掌造りの伝統・文化を守っていこうとする将来の担い手育成に大きな役割を果たしていることが分かりました。

今回の講演は、私たち教師に、新しい視点を与えてくれました。子どもたちが世界に向けて大きく羽ばたくためには、まずは私たちが住む日本や地元を知り、愛さなければならないと思います。地域に根差した教育を行うことで、その地域を愛する人が育つのではないのでしょうか。

写真や映像を使い、とても分かりやすく、興味をひきたてられる講演でした。80分という時間でしたが、あっという間でとても有意義な講演会となりました。



## ■ 「若手教員学習会（富士・東部地区）」が開催されました

今年度から山梨大学教育学部が推進している「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業（平成30年度文部科学省委託事業）」の一つである「若手教員学習会」が、峡東地区、峡南地区に続いて、今月は富士・東部地区において、12月11日（火）に開催されました。

「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価－OPPシートによる学習・指導と評価の一体化－」と題して、都留市まちづくり交流センターにおいて、初任者からベテランまで地区の教員43名が参加し、充実した学習会を行うことができました。その内容を簡単にご紹介します。

まず初めに、山梨大学の理事・副学長である堀哲夫先生から、OPPA論の概要説明がありました。続いて、OPPAの実践者である、武蔵野市立第五中学校の辻本昭彦先生による、理科や道徳での実践事例の紹介や、参加者相互の演習などにより、学習を深めました。最後に、参加者一人一人が、本日の学習会のOPPシートを作成し、自らの変容を確認することができました。

今回の学習会もこれまで同様、これからの教育評価の柱ともなるべきOPPAについて、わかりやすくまた楽しく学ぶことができました。

今後は、来年の1月17日（木）に中北地区（敷島総合文化会館）において、開催を予定しております。

（用語解説）OPP：1枚ポートフォリオ one page portfolio の略

OPPA：1枚ポートフォリオ評価

〔受講者のOPPシートから〕

- ・目標から出る「問い」なんて考えたことがなかったです。しかし、その「問い」こそが子どもの考えをさらに深めたりすることのできるものなんだと感じました。ありがとうございました!!
- ・子どものありのまま素直な意見を見とっていくこと、またそれをいかに評価し、指導につなげるかが大切。授業を押しつけるのではなく、子どもが何を学び、どう感じたか、それを受け止め授業改善!
- ・型にはまったものが全てではない。うもれていた子どもたちの考えには、自分の予想を超えるものがあつたのかも… これからいろいろ見ていきたい。

## ■ 「地域連携子どもと親と教師のための教育相談事業」第2回連絡協議会が開催されました

山梨大学と山梨県教育委員会、教育四者（山梨県PTA協議会・山梨県公立小中学校校長会・山梨県公立小中学校教頭会・山梨県連合教育会）による「地域連携 子どもと親と教師のための教育相談事業」の第2回連絡協議会が、12月13日（木）に開催されました。

協議会では、平成29年度の児童生徒の問題行動・不登校などの件数が報告されました。不登校は、公立小・中・高で前年度より107人増の1106名、いじめの認知件数は、前年度から861件増の4459件（内、いじめが解消しているものは、小学校で92.1%、中学校で91.9%、高校81.1%、特別支援学校85.7%）でした。また、今年度の教育相談の状況の共有と、山梨大学委員（川本）による教育相談に関する研修（多様な背景を生きる子ども理解）が行われました。

---

これまでのセンターだよりの一部は、<http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。